

3 「登研会」の発足と「登戸研究所跡碑」建立へ

戦後も登戸に居住していた第一科庶務班長（大尉）中本敏一郎，地域の元若手勤務員が呼びかけ人となって1982（昭和57）年，初めて全ての科OBが集まる「登研会」が発足しました。会の発足には，伴や山本のメディア出演や，伴の生田キャンパス来訪が影響したと考えられます。

1982年3月に開催された第一回登研会では，交流を促進させるための名簿作成と「登戸研究所跡碑建立」が目指されました。跡碑建立のために元登戸研究所所員らに寄付を呼びかけ，当時の身分や男女関係なく多くの元所員，勤務員が寄附をし約54万円が集まりました。建立についての明治大学との交渉は

伴が担い，弥心神社（現・生田神社）境内に建立することが決定しました。

碑文については，登戸研究所の功績を遺す①案と②案，そして積年の思いを句にこめた③案が提案されました。決定には，将校クラス（幹部）の一存ではなく全員の意見が反映されるよう，投票制としました。結果，②案と③案が同票だったため，さらに選考会を経たのち，この2つを組み合わせた跡碑が完成しました。

当時の身分に関係なく碑文が選ばれたことは，登研会の特色と言えます。

跡碑にある「すぎし日は この丘に立ちめぐり逢う」という碑文は，長年誰にも語れなかった登戸研究所の思い出を今ようやく話せるようになったと，登戸研究所に勤めていた全ての人の思いが込められています。

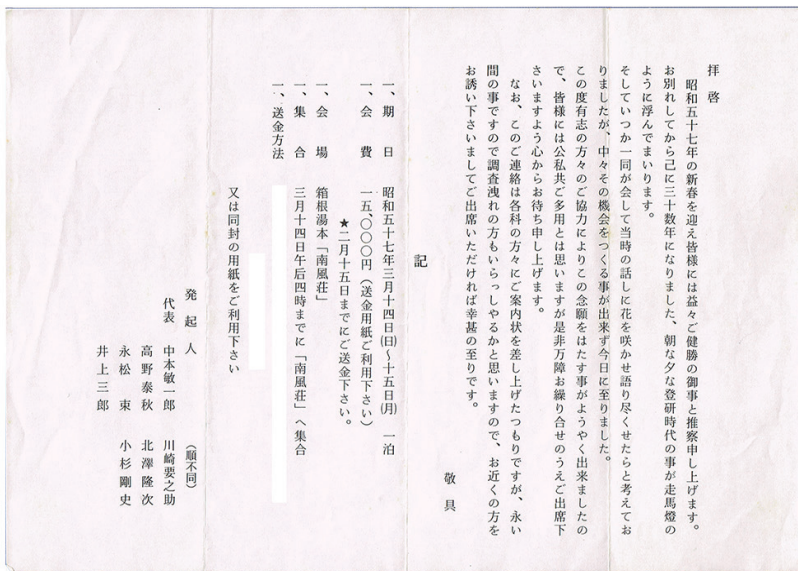


図7 登研会のようす 2003（平成15）年9月撮影



図8 登戸研究所跡碑除幕式 1989（平成元）年4月撮影

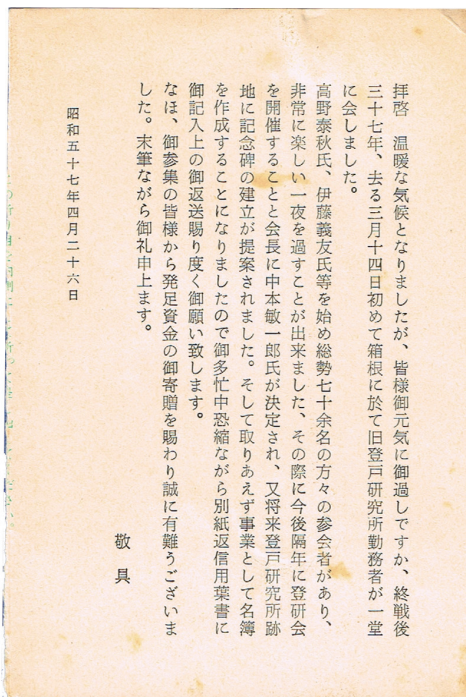




第1回登研会案内状

1982（昭和57）年 | 登研会 | 栗山武雄氏寄贈

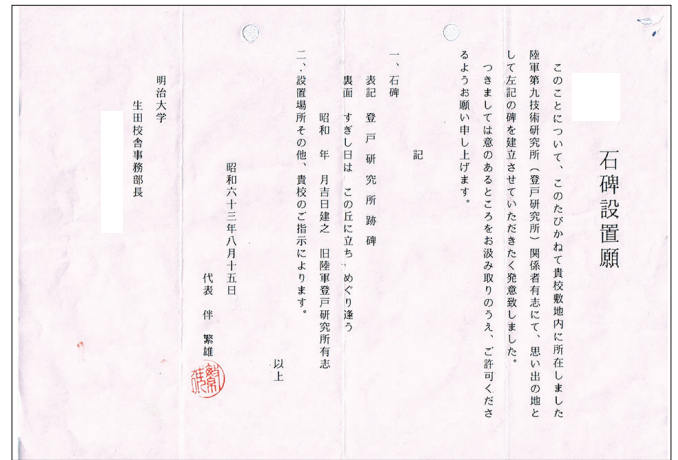
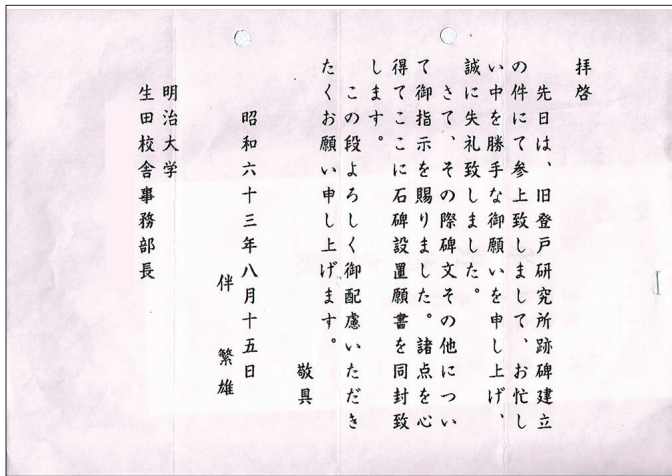
高野泰秋は第一科第二班長（特殊無線，少佐），伊藤義友は総務（少佐），中本敏一郎は第一科庶務班長（大尉）。



第一回登研会の報告および登研会名簿参加呼び掛けハガキ

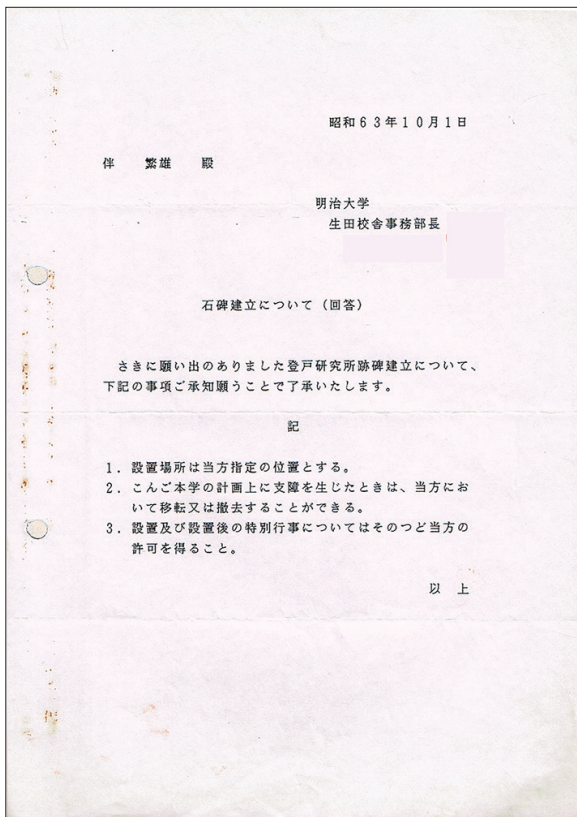
1982（昭和57）年4月26日 | 登研会 | 栗山武雄氏寄贈





「石碑設置願」

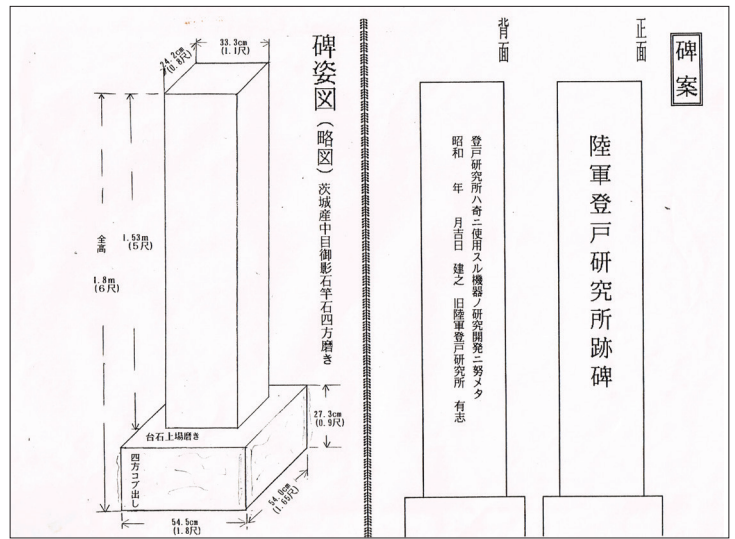
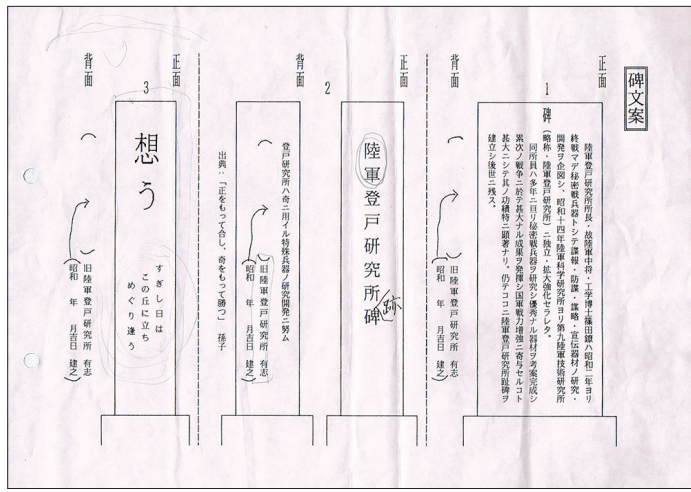
1988（昭和63）年8月15日 | 伴 繁雄 | 明治大学所蔵



「石碑建立について（回答）」

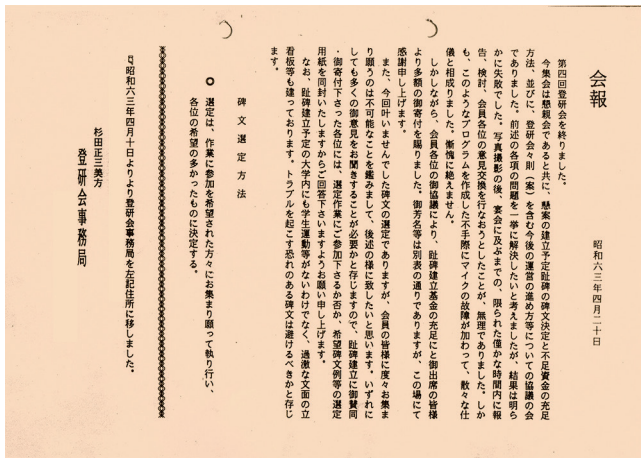
1988（昭和63）年10月1日 | 明治大学生田校舎 | 渡辺賢二氏所蔵





「碑文案」

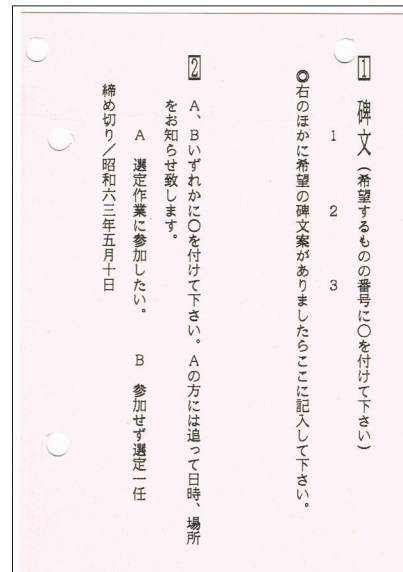
1988 (昭和 63) 年 | 登研会 | 渡辺賢二氏所蔵



登研会会報

1988 (昭和 63) 年 4 月 20 日 | 登研会 | 渡辺賢二氏所蔵

第 4 回登研会 (1988 年 3 月) において碑文を決定する予定だったが、叶わず、ハガキによる投票制で碑文を決定する旨書かれている。

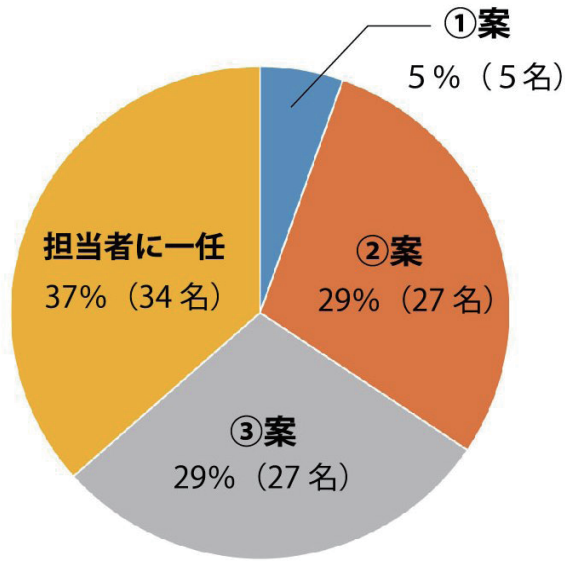


碑文アンケートハガキ

1988 (昭和 63) 年 | 登研会 | 渡辺賢二氏所蔵



跡碑文 投票結果



88名の回答。複数の案に投票した者あり。
回答なしの27名は一任に含めた。

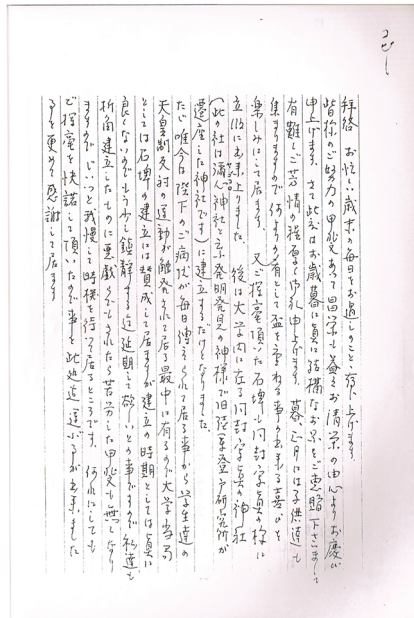
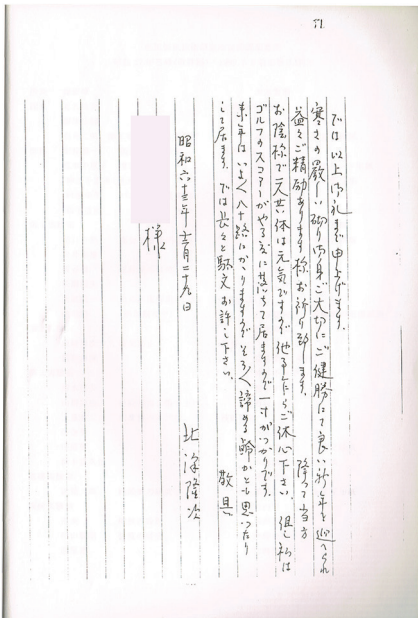
②案と③案が同票だったため、さらに選考会が行われ、②と③の二案を組み合わせた今の形に決定した。

選考会メンバーは9名。内訳は伴繁雄など将校クラス4名、地域の元若手勤務員3名（うち2名女性）、当時の身分不明2名。

跡碑に関する書簡

1988（昭和63）年12月29日
| 北澤隆次 | 木下健蔵氏寄贈

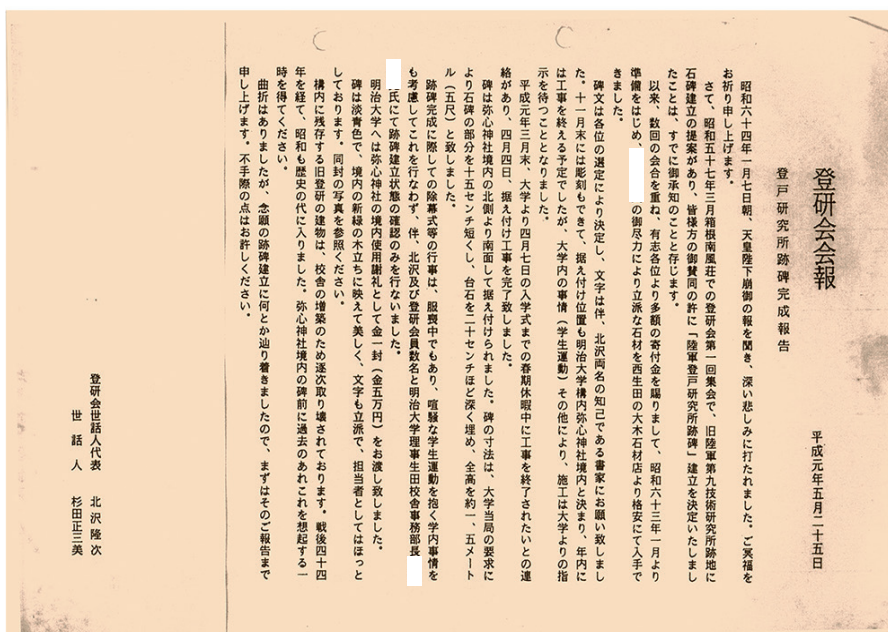
『故北澤隆次追憶集』（1999年）より。当時の登研会会長・北澤隆次（元第四科技師）が、跡碑の揮毫者にあてた手紙。1988年10月に跡碑を建立する予定だったが、昭和天皇危篤による明治大学生田キャンパス内の学生運動の高まりにより、跡碑建立を遅らせると書かれている。



登研会会報

1989（平成元）年5月25日 | 登研会 | 渡辺賢二氏所蔵

登戸研究所跡碑建立完了のお知らせ。



「登戸研究所跡碑」写真（碑文面）

2020（令和2）年9月 | 資料館撮影

「登戸研究所跡碑」拓本

2013（平成25）年1月 | 稲田善樹氏作成